

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403689
法人名	株式会社 ホライズン
事業所名	グルーゾホーム内郷
所在地	福島県いわき市内郷高坂町大町27-1
自己評価作成日	令和5年10月17日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai-go-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピードルしたい点(事業所記入)】

日常生活において出来る限り、身の回りの事が出来ることを続けられるよう以下の低下防止や歩行訓練、手すりにつかまり立ち運動を行い、ラジオ体操、ソバアツ体操、レクリエーション、食前体操、お口の筋肉強化運動、鼻呼吸にありうべ体操を毎日必ず行っています。利用者とは車でドライブや近隣内の散歩、近くのスーパーでの買い物など気分転換し、質の向上を高めています。また、医療との連携を大切に利用者様の状態により緊急時には、主治医の意見やアドバイスなどの指示を仰ぎ、ご家族の方にも情報が分かるように体制を整えています。利用者様、ご家族の皆様が安心して生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいた介護・利用者本位の介護を基本にし、管理者と職員が話し合い、ここでよかった、住んでよかったと思って貰える事業所運営を着実にやっている。ここで行事には互いに利用者を招いて一緒に楽しむなど、近隣の介護事業者と連携・協力し合い、地域密着型サービスの役割を理解し、地域の中で頼られる事業所であると考え、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい ☐ 2. 利用者の1/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらいない ☐ 4. ほとんど掴んでいない	☐ 1. ほぼ全ての家族と2/3くらい ☐ 2. 家族の1/3くらい ☐ 3. 家族の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある ☐ 2. 数日に1回程度ある ☐ 3. たまにある ☐ 4. ほとんどない	☐ 1. ほぼ毎日のように ☐ 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに ☐ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい ☐ 2. 利用者の1/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどいない	☐ 1. 大いに増えている ☐ 2. 少しずつ増えている ☐ 3. あまり増えていない ☐ 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい ☐ 2. 利用者の1/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどいない	☐ 1. ほぼ全ての職員が2/3くらい ☐ 2. 職員の1/3くらい ☐ 3. 職員の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい ☐ 2. 利用者の1/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどいない	☐ 1. ほぼ全ての利用者が見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ☐ 2. 家族等の2/3くらい ☐ 3. 利用者等の1/3くらい ☐ 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい ☐ 2. 利用者の1/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどいない	☐ 1. ほぼ全ての利用者が見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ☐ 2. 家族等の2/3くらい ☐ 3. 家族等の1/3くらい ☐ 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が2/3くらい ☐ 2. 利用者の1/3くらい ☐ 3. 利用者の1/3くらいない ☐ 4. ほとんどいない	☐ 1. ほぼ全ての利用者が見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ☐ 2. 家族等の2/3くらい ☐ 3. 家族等の1/3くらい ☐ 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己評価		外部評価	
項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づいた運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員ひとり、一人が理解し、利用者様の信頼を聞き、家族と協力しながら利用者様の思いが実現できるように支援し、利用者様も安心して生活できるように努めています。	開設時に事業主と職員で作成した理念に基づいた運営をし、利用者がここに来てよかったといっておける時に理念が活かされていると感じている。職員は、利用者が安心した生活を送れるよう、話し合い、安全で快適な介護ができるよう取り組んでいる。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地域の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	近隣の同業者でイベントがありました。利用者様は、マスクを着用して参加しました。久々の交流でしたので利用者様もとても喜んでいました。近隣の方や同業者とも良好な関係を築いています。	隣組に参加し、回覧板を回して貰っている。隣に同業者があり行事があると声を掛けて貰い参加している。日常的には、地域の方と挨拶をしたり話などしたりしている。コロナ禍が落ち着いたため、ボランティアに声掛けし、クリスマス会などを予定している。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症相談窓口として受け入れ、認知症への理解、支援方法を気軽に話し合えるように地域に貢献しています。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	書面開催とした運営推進会議を取り組みホーム内の状況、活動を報告しています。	会議の中で、利用者と一緒に出掛けるところで良いところを教えて貰い、計画を立て出かけたところ喜んで貰っている。推進会議を事業所のケアの質の向上に役立てることができるよう、率直な意見をもらいサービスの向上に役立てている。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や疑問点がある場合には、すぐに市の担当者に相談をし解決するようにしています。介護への理解を深め、よりよいケアに努めています。	入居させたい方の情報や、提出書類などで分からない事があると相談し教えて貰っている。介護相談員の訪問を月に2回依頼し、利用者の状況を把握して貰い、利用者一人ひとりにあったサービス提供に取り組んでいる。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、指針を見ながら会議、ミーティングの時に話し合いを行い身体拘束につながらないようにしています。	研修を受け学び指針を作成し、三か月に一回以上は、委員会を開催して話し合っている。言葉の拘束について、気づいたときには指導し、拘束をしないための指針を確認して貰っている。利用者一人ひとりの一人歩きや外出の傾向を把握し対応している。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、指針を見ながら会議、ミーティング運営推進会議などでも話し合いを行い虐待防止に努めています。	高齢者虐待防止関連法を研修や虐待防止の方針を基に学び、会議時に話した内容に気をつけながらケアに取り組んでいる。万一、不適切なケアを起した時は、職員から話を聞いて話し合い、次に同じことが繰り返されないようにしている。

自己評価	外部評価	外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
項目	自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加し、必要性がある場合は、関係者と話し合い、活動できるようサポートします。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について十分な説明を行い、理解納得を図るように努めています。	
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見を反映させるように日々の会話、表情、PCメール、Facebookでの通信などから組み取るように努めています。	意見箱を玄関前に設置している。利用者には、会話の中で要望などをきき、欲しいものや食べたいものがあり、家族に伝え、事業所で必要なものは購入し、食べたいものは、食事やおやつ時に利用者の要望に応えるようにしている。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎月定期的にミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けたり、自主的にボードに意見を述べられるようにもして努めています。	意見や提案を活かし、利用者がより良く過ごせるよう、毎日が楽しんで過ごせるよう考えている。資格取得や研修会への参加の要望があったときは、勤務変更するなど要望に応えるようにし、職員の向上心を高めるようにしている。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持つて働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、処遇への反映、向上、心を持って協力的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加が少ないが予定が合う時は、参加させています。また、個々の力量に応じた研修で学んでいければと考えています。	管理者・運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、外部研修、社内研修をして質の確保に努めている。研修参加者には、報告書を書いてもらい、ミーティングには、研修報告をして貰うようにしている。
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流している法人との研修や情報を交換し充実させサービスの質を向上していけるように努めています。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と言語に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入所前に本人と面談できる機会を作り、できるだけ本人の要望に応じ安心して生活できるようにしていきたい。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望などを聞き入れ、またホームの説明も行った上でサービスを導入しサポートしていきたい。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時「まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が本人にとって良いのか家族の方やケアマネなども、お話し合いをする。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合える関係を築いていければと思います。			
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り支えていける関係を築けていきたいです。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーや馴染みがある場所までドライブしたり、長い間かかりつづけた医療機関など入所しても変わらずこれまでの関係を壊さない様に心掛けていきます。	家族や親族との面会は、時間の制限は設けているが、変わらず面会はして貰っている。友人、近所の人、家族、親族、その他の人と関係が継続できるよう、電話、メール、FAXなどを使用し頻繁に連絡しあえるようにしている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解し、関わり合いを支え合えるように努めています。			

外部評価		外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
自己評価	項目	自己評価 実践状況	実践状況
29	外部 ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、イベント、地域の図書館を活用したりと楽しむことが出来る様に交流し支援しています。	
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を大切にし、適切な医療が受けられるように支援していきます。	入居前からのかかりつけ医の継続も、事業所の協力医療機関への変更の可能にしている。受診は、家族や職員が対応し、受診結果は、家族から報告を受けたり、受診ご家族に電話で報告し、共有している。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを定期的に行い、いつもと表情や変化があれば医療機関に相談し適切な看護を受けられるように支援していきます。	
32	○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報を交換したり相談し合い支援していきます。	
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできること、医療機関でできることを事前に伝えて話し合い、利用者様の状態が変わった時にも混乱がないようにチームで支援するように取り組んでいます。	医療機関からの説明や、延命治療の説明の話し合いの場に係わり、出来るだけのことをするようにしている。時間外、夜間帯でも医師と、連絡ができるようになっており、訪問看護を使用する場合も指示書によって連携が可能になっている。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応は、職場内で話し合い、全員が統一して対応できるようにしています。また医療機関にも相談をして応急対応を教えてください実践力を高めています。	
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画書、避難計画書の計画があり、職員全員に避難方法手順を身に付けられるよう訓練は、行っています。万が一に備えて地域との協力体制も築いています。	訓練の時に、消防の派遣を要請したり、委託業者や地域の方に参加して貰っている。消防署から、消火の流れや避難時の誘導時間を早める方法などの助言を貰っている。職員だけでの避難誘導の限界を確認し、地域の方や警察・消防と連携・協力体制を築いている。

自己評価		外部評価	
実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	外部 自己 (14) ○一人ひとりの尊重とグライバーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやグライバーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いにも気を付けながら利用者様の声掛けにも対応し、誇りやグライバーを損ねないよう出来る限り受け入れ配慮しています。	利用者のグライバーを尊重し、尊厳を守ることを職員に伝え、の言葉かけが命令の言葉にならないようにするなど、コミュニケーションの方法で注意している。利用者同士で、尊重やグライバーを損ねるようなときは、職員が間に入り対応している。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が悪いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添えるように働きかけている。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、決まっていますが利用者様のペースを大切にしながら安心して生活できるようにしています。	
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	本人の好みに合わせて清潔感のある身だしなみを支援しています。また、介助が必要な利用者様も衣類等に汚れがある場合は、声掛けにて交換し、清潔に対応しています。	
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	料理は、職員が調理するため、利用者様の好みを取り入れ出来る限り季節を感じられるような料理を考えています。食感を高められるように食材や彩を考えて盛り付けをしています。	メニューは、利用者の要望を聞いたり、季節にあつたものを取り入れ職員が作成している。行事に料理教室をとり入れ利用様全員で調理に関われるようにしている。外で食事をする機会が困難なため、すしなど取寄せ喜んでもらっている。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応じた支援をしている	バランスや食事量を考え、利用者様が食べたいと思う料理を考えています。また、利用者様の水分量に関しても1日どのくらい水分を取っているのかも把握しています。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事する前のうがい、食事後の口腔ケアは、きちんと行っています。口腔ケアが困難な利用者様に対しては、職員で話し合いをして、口腔ケアが出来る限りできるように支援しています。	

自己評価	外部評価	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	外部 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様が出来る限りトイレで排泄が出来るように定期的なトイレの声掛けをしてトイレ誘導しています。	家族に経済的負担がかからないよう、失禁等を増やさない為にも、その人にあった定期的な声掛け、トイレ誘導をしている。失敗しても、臆ずかしいと思わないようそっと声掛けし、失敗の原因を分析し、職員で話し合い検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけ、また飲食物を工夫してみてもそれでも困難な場合は、主治医に相談します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様1名ずつゆつくりと入浴ができるように対応しています。入浴剤を入れることにより、利用者様の気持ちがりっつしゅされ気分よく上がられています。	入浴を嫌がる方がいるときは、嫌いな原因の情報を確認し職員と話し合い、どのようにすれば入浴して貰えるか検討し、何回も挑戦しながら入れる方法を見つけている。衣類の着脱時に羞恥心に配慮し、一人ずつの対応にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに依ったり、その日の体調、気温など安心して休まれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報を理解して薬に変更があれば、症状の変化を観察し状況によっては、主治医に相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ事を引き出し、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を抑え、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でのドライブ、近隣内の散歩、お買い物など出来る限り機会を設けています。またご家族の協力で外出することもあります。	散歩できる道路や、店舗、病院などに職員と一緒に出かけている。行事で出かけるときは、季節を楽しむなどの計画を立てから、トイレの位置、歩行しやすい場所などの下見をして準備をしている。歩行困難な方も出かけられるようにしている。	

自己 外部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカにに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の方にお願ひしています。本人が希望する物がある場合は、事業所で立替をして職員と一緒に買い物へ行っています。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方から電話があれば利用者様とお話をしています。また手紙が届いたときは、直接利用者様にお渡ししています。			
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、利用者様と工作をした作品は、掲示し空間作りに配慮しています。	ひとり一人自由に、居室と共有空間両方で、その人の好みの場所で過ごして貰っている。インフルエンスなど感染症対策のため、手洗い、うがい、各所の消毒を徹底している。快適に過ごせるよう、温度、湿度の調整をこまめに行っている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い共同居場所を工夫しています。			
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの物を持ってきてもらう事で、その人らしく安心して生活してもらえるように工夫しています。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。居室を間違わないよう、居室前の壁に名前を貼って分かりやすいようにしている。利用者情報を作成し、避難時等の利用者の状況などが分かる工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、分かりやすく名称をつけて混乱せず安心して過ごせるように工夫しています。			

目標達成計画

作成日：2024/01/04

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員のスキルアップと虐待防止や身体拘束への理解を深めるため、研修に参加出来るようにしたいです。また、研修内容を施設内で共有しホーム全体のレベルアップをしていきたいです。	研修を受けられる機会を確保出来るよう取り組む。	研修の内容日程を把握、シフト調整などしていき多くの職員が研修を受けられる機会を作っていく。	12月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。